

2020年12月24日  
宮崎中部教会クリスマスイブ礼拝  
牧師 乾元美

エレミヤ書23章5～6節  
ヨハネの手紙一4章9～10節  
「ここに愛があります」

クリスマス、おめでとうございます。クリスマスは、神さまの独り子であるイエスさまが、わたしたちの救いのために、まことの人となってお生まれくださった。この救いの出来事を、神さまに感謝し、喜び、祝う日です。

教会は、この世の造り主である、神というお方の存在を信じています。この方が、わたしたちをお造りになり、命を与え、愛して下さり、共にいて下さると信じています。神さまは、わたしたちを愛しておられる。ここに、わたしたち人間の喜びのすべてがあります。

しかし、わたしたちは、どういう時に「神の愛」というものを感じるのでしょうか。「神の愛」。この言葉は、なんだか優しく、温かく、心地よい、穏やかなイメージではないでしょうか。

わたしたちが「神さまに愛されている」と実感するのは、ものごとがうまくいく時や、健康に恵まれている時。また、たくさんの人に認められた時や、生活が満たされ、不安がなく、穏やかな気持ちでいる時かも知れません。

確かに、それは神さまに感謝すべき恵みであり、喜ぶべき事柄です。

でも、いつもそうではありません。そうではない時はどうなのでしょう。それは、神さまに愛されていない時なのでしょう。神さまに見放された時なのでしょう。

たとえば、今年一年は、新型コロナウイルスに世界中が翻弄された年でした。このウイルスは、病の苦しみ、また死をもたらしました。医療従事者やエッセンシャルワーカーと呼ばれる人たちは疲労困憊し、国々の政治は混乱しました。多くの人が仕事を失い、経済的な苦しみで、この日本でも、食べる物がままならない人がいます。人との接触がなくなり、孤独に陥る人がいます。人々の不安から、分断や差別が生まれています。そして、この大きな苦しみの陰で、またそこに生きる一人一人が、家庭の悩み、人生の悩み、心の悩みを抱えています。

どうしてこんなことになってしまったのでしょうか。神さまは、この世界を見限られたのでしょうか。

神さまを信じていない人は、「神さまがいるんだとしたら、どうしてこんな悲惨なことが起こるんだ。やっぱり神などいないのではないか」と言うかも知れません。

神さまを信じている者たちも「神さまは どうして何もして下さらないのか。苦しみにある世界を、ここで嘆いている私を、ただ眺めておられるだけなんだろうか。」そんな風に思ってしまうことも、あったかも知れません。

「神さまの愛はどこにあるんだろうか。」世の苦しみや悲しみは、わたしたちの心を曇らせて、神さまの愛に対して疑いを抱かせたり、信じる心をぐらつかせようとしています。

しかし、聖書には、大切なことが語られています。今日読まれたヨハネの手紙一4:9にはこうあります。「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。」

神の愛は、神が独り子を世にお遣わしになったことに示されている。イエスさまが、神さまのわたしたちに対する愛を示している。イエスさまに、神さまの愛がある。聖書はそう語っています。

「神の愛」は、わたしたちの思いが実現するところや、わたしたちが心地よいと感じるところに見出されるものではありません。また、この世の出来事を見つめていても、神さまの愛を知ることは出来ません。神さまはイエスさまによって、ご自分の愛を示されたのです。わたしたちは、神さまの愛を求める時は、イエスさまを見つめなさい、とされているのです。

聖書に書かれていたように、イエスさまが来られたのは、「わたしたちの罪を償ういけにえ」となるためです。

聖書の「罪」というのは、「的を外す」という意味です。神さまに造られ、神さまに生かされている人間は、本来、神さまの方を向いて、神さまと共に歩むべき存在です。しかし、神さまの方を向かずに、自分の望む方に向いて自分勝手に歩むこと。神さまからの的を外して、神さまから離れて歩むこと。神さまに無関心になること。神さまに背くこと。これを「罪」と言います。ですから、わたしたち人間は皆、自ら罪に向かい、闇に捕らわれ、神さまを悲しませ、怒らせ、神さまに対して深い罪を負っているのです。

しかし、神さまは、わたしたちが背いても、離れても、それでも愛して下さいました。

罪に捕らわれ、闇に捕らわれ、死に捕らわれてしまったわたしたちを救うために、神さまは愛する独り子を、わたしたちの罪を償ういけにえとするために、この世に遣わして下さいました。御子の命と引き換えにして、わたしたちを罪から救って下さるのです。

それほどまでに、神さまは、わたしたちが神さまのもとに立ち帰って、神さまと共に生きる者となることを望んで下さったのです。

そのために、イエスさまはこの世にお生まれになって下さいました。小さく、貧しくなられたのは、どんなに小さい者とも、どんなに貧しい者とも、どんな罪人とも、共にいて下さるためです。十字架に架けられた時、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになるのか」と叫ばれたのは、「神に見捨てられた」と叫ぶ人間と、共にいて下さるためです。

この世のどんな悲惨の中でも、どんな苦しみの中でも、どんな悲しみの中でも、イエスさまは共にいて下さいます。神さまの愛は、いつも離れず、わたしたちと共にあります。

この世には苦しみや悲しみがあります。納得できないこと、理不尽なことが山ほどありま

す。しかし、神さまはわたしたちを苦しめようとされたり、意地悪をされたり、見捨てたりなさる方では決してありません。

神の御子イエスさまは、この世に、悲惨で、惨めで、罪と悪に満ちた世に来て下さって、わたしたちのために命をささげて下さったのです。わたしのために生まれ、わたしのために死んで下さったのです。

そして、神さまはイエスさまを死の中から復活させられました。わたしたちの罪がこの方によって償われたこと。滅びの死から解放されたこと。わたしたちが、神さまの子どもとして新しい命に生きる道が拓かれたことを、示して下さいました。

それほどまでに、神はわたしたちを愛しておられるのです。わたしたちのためなら、神の御子が人となることも、苦しみと侮辱の果てに、十字架に架かって死ぬことも引き受けて下さる。これが、神さまのわたしたちに対する愛です。

イエスさまを信じることは、神さまの愛を受け入れることです。

信仰を持って生きることは、神さまの愛の中で生きて行くということです。

わたしたちは、この神さまの愛を知ったならば、どんな苦しみの中でも、どんな悲しみの中でも、神さまの愛と、慈しみと、憐れみが、いつも自分を囲んで下さっていることを確信することが出来るのです。神さまが共にいて、支えて下さること、慰めて下さること、そして、人を愛する力を与えてくださることを知るのでした。

わたしたちは、いつでも神さまに助けを祈り求めることが出来るのです。わたしたちは、世に絶望しかないように思えても、神さまにあって希望を見出すことが出来るのです。

ここに、わたしたち人間の、最大の喜び、最大の幸せがあります。

喜び、幸せとは、この世で満ち足りることや、心地よい感覚や、波風立たない穏やかな日々なことではありません。それらは、今年わたしたち皆が経験したように、いとも簡単に崩れ去るし、失われてしまうものです。

本当の喜び、本当の幸せは、神さまが共にいて下さることです。わたしが神さまを知る前から、神さまがわたしを知っておられるということ。わたしが愛する前から、神さまが私を愛して下さいましたということ。これを知り、受け入れることが、わたしたちの救いです。

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」

わたしたちは、今ここにある愛を、遣わされたイエスさまの救いを、しっかり見つめたいと思います。

自分の力では耐えられない苦しみの世も、立ち上がれないと思うほどの嘆きや悲しみも、神さまが共にいて下さるなら、神さまの愛によって慰められ、励まされ、新たな力を与えられて、歩いていくことが出来るのです。そして、この神の愛に支えられてこそ、人は互いにも愛し合い、苦しみを担い合い、共に歩いていくことが出来るのです。

クリスマスイブのこの夜、わたしたちが神さまに愛されていることが示されました。飼葉桶に寝かされた、神の御子イエスさまを見つめ、神さまの愛を見つめましょう。この恵みの出来事が起こったクリスマスを、心から喜び、感謝し、お祝いしましょう。

### 【お祈り】

わたしたちを愛して下さる天の父なる神さま

わたしたちが生きるために、独り子イエスさまを世に遣わして下さい、ありがとうございます。イエスさまが、十字架の死と復活によって、わたしたちの苦しみも、悲しみも、罪も、死も、すべてを担って下さり、わたしたちに神さまと共に生きる、新しい命を与えて下さりました。

このイエスさまの救いによって、神さまの愛によって、わたしたちが日々を力強く歩いていくことが出来ますように。喜びの時も、悲しみの時も、イエスさまが共にいて下さる恵みをいつも見つめることが出来ますように。

そして、分断が起こり、孤独や不安が満ちる今の世にあって、神さまの愛を受けたわたしたちが互いにも愛し合い、思いやりをもって、共に歩いていくことが出来ますように。

神さまの愛を、イエスさまの救いを、この世に満たして下さい。すべての人が、神さまに愛されていることを知ることが出来ますように。

救い主、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

### 【祝福】

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン